

「都」構想Q&A

22日投票開票の大阪府知事に再選された「大阪維新の会」の松井一郎氏、大阪市長選に初当選した吉村洋文氏は、あたかも両選挙で信任されたかのよう。「大阪都」構想への再挑戦に乗り出そうとしています。改めて「大阪都」構想について考えます。

「修正」中身は同じ

Q 「大阪都」構想は、5月の住民投票で否決されたはずなのに、別区の区割りをどうするか、「湾岸区」などの名称が不評だったのでどうするか、というもの。大阪市も24区もなくして、権限も財源も「都」(府)に吸い上げ「修正」するとしていますが、「1人の指揮官」(知事)です。といっても、「修正」のやりたい放題の体制をつくることには変わりはありません。

住民サービス削減

Q 吉村氏は「市役所はなくなるけど、市民サービスは変わらない」と言っています。A 大阪市がなくなると、区では保険料を下げたり、減免制度をつくることもできなくなると思います。そもそも、「大阪都」構想は、これまで大阪市がすすめてきた市民サービスをばっさり削り、市民向け施設を売り払い、その浮いたお金でカジノなど大型開発を進めようというものです。

黒字の地下鉄を民間に売り払おうとしているほか、子育てプラザを24カ所から18カ所、老人福祉センターを26カ所から18カ所、プールを24カ所から9カ所にそれぞれ減らすなど削減計画が目白押しです。

大阪市つぶして「再生」?



大阪維新は「大阪市役所をなくすだけ」というが...

乱暴な二重行政論

Q 大阪維新は「二重行政」の解消には、「大阪都」しかないと言っている。A 「府立」と「市立」のふたつあるのは、無駄な「二重行政」だ、大阪を一つにしてしまえば、「二重行政」はなくなるという乱暴な主張です。

大阪維新が「二重行政」だとやり玉にあげているのは、府立急性期・総合医療センターと住吉市民病院、府立大学と市立大学、府立体育館と市立中央体育館、府立中央図書館と市立中央図書館、府立公衆衛生研究所と市立環境科学研究所などです。それぞれ役割を分担し、たくさん利用者があります。信用保証協会は2014年5月に統合され、中小業者を困らせています。

選挙中も大阪維新がパネルを使って、「二重行政」による税金の無駄遣いの象徴のように宣伝した旧WTCビルとりんくうゲートタワービルの破綻は、「二重行政」の結果ではありません。国が大阪に押し付け、関西財界があおったゼネコン浪費型巨大事業が破綻したものです。

「二重行政」解消というなら、防災拠点にもならないことがはっきりした咲洲(さきしま)庁舎との「二重庁舎」の解消こそ、真先に実施すべきです。

草の根の共同再び

Q 大阪市廃止へむけ大阪維新が描いているスケッチは、A 3年かけて「大阪都」構想の「修正」を練り上げ、4年の知事・市長任期中に、再び住民投票に持ち込みたい意向です。

府市の協議機関「府市統合本部」を年内にも設置し、年明けから大阪市の「区政会議」を活用して「大阪都」構想について住民の意見を聞く方針で、廃案となった設計図を作成した旧大都市局のような事務局組織を設ける考えです。

吉村氏はまた、国政政党「おおさか維新の会」の政調会長として、「大阪の副首都化」関連法案の作成に着手し、来夏の参院選では是非を問いたいと言っています。

巨額の税金と労力を使って大阪を潰すことが、大阪の真の再生につながるのか。もう一度、草の根から議論を巻き起こし、「大阪市をなくすな」「大阪を残して、よりよい大阪に」との共同を広げることが必要です。議論も注目を浴びます。